



2021・1・21

第 398 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 未来になう新成人を9条ささえる担い手に

### 成人式会場でよびかけ

#### 【仙台市／宮城県内九条の会連絡会】

仙台市の成人式がユアスタジアム仙台に会場を変更して1月10日（日）に開催されました。11000 人の新成人のうち、今年は3,200 人参加したそうです。コロナ対策のためにスタジアム観覧席に間隔をあけての参加でした。

宮城県内九条の会連絡会はボランティアが20人で、来場する参加者に「成人おめでとう！未来は君たちの手に！頼むね♥」パンフを配布しました。今年は地下鉄泉中央駅で降車したら、ペDESTリアンデッキを歩いて会場に行く若者が多いので、それぞれの降り口などにメンバーを配置して配付しました。

パンフだけだと受け取り率が悪いので、ポケットティッシュにパンフを差し込み、「憲法九条をよろしくお願いします。」と声を掛けながら渡すと「9条って何？」と問い返してくる新成人も結構多く、やりがいのある楽しい配付活動でした。

#### 【宮城県名取市／名取九条の会】

1月10日、名取市文化会館前で行われた市主催成人式に九条の会が10人参加でおよ

そ1時間、恒例の新成人への呼びかけを行いました。県内九条の会連絡会の作成した

#### 《櫻井よし子の菅首相インタビューより》

#### 「改憲へしっかり挑戦したい」

（「産経新聞」1月3日抜粋）

**櫻井** 憲法改正は、国民に対する自民党の“約束”です。

**菅** 自民党は党是として自主憲法制定という旗を掲げ、党所属議員は党の公認を受けて選挙を戦っているのですから、改憲に向けて進むのは当然のことだと思います。

安倍前首相は大変熱い思いで取り組んでおられました。憲法改正の国会発議には衆参両院の総議員の3分の2以上の改憲勢力を確保しなければならないという大きなカベがあることは事実です。ですから私もしっかりと挑戦したいと思います。

チラシ入りのティッシュを配布。コロナ対策として箱と籠に分割して入れ、「ご成人おめでとうございます 名取九条の会」のポスターを貼って接触をなくす工夫をして実施。

名取市の成人式は新型コロナ対策のために午前と午後の2部制で学区割となったた

めに、参加した若者はいつもより少ない感じでした。宣伝した名取九条の会の皆さんも昔の若者であり、結構な寒さのため、午前の第1部だけで午後の宣伝は中止しました。（「みやぎの九条」NO330）

### **この地から9条守る声を世界に 【奈良県桜井市／「九条の会」桜井】**

11日、桜井市の成人式会場前で「九条改憲発議に反対する緊急署名」の宣伝をしました。40枚のミニリーフ配付、3筆の署名がありました。新成人1名が署名に応じてくれたのが嬉しかったです。

会は2004年6月の「九条の会」アピールの趣旨に賛同し、翌年6月に発足しました。

参加呼びかけのしおりには、『私たちが暮らす桜井市は、「山辺の道」のように日常生活の中にとけ込んでいる歴史的・文化的遺産を数多く持っています。その遺産を守り、子々孫々に伝えるためにも、この桜井市から「戦争しない」ことをうたった日本国憲法九条を守り世界に耀かせるために、ご一緒に声をあげようではありませんか。』と呼びかけて、6名の呼びかけ人の賛同をいただき、スタートしました。現在の会員は、約80名ですが、高齢の方も多く、なかなか大きな取り組みはできていません。

発足の集いでは200名を越える参加者で「ピースコンサート」を持ち、年2回の「平和のつどい」と「平和を語るつどい」を開いてきましたが、ここ数年は、20名程度ですが、年1回の「つどい」を開いています。

コロナ感染の拡大前までは、事務局会議（診療所会議室をお借りして）を開いていましたが、一昨年12月の「平和を語るつど

い」以降は、集いも開くことができず、月1回（原則9日）の憲法宣伝だけを少人数で行っています。ハンドマイク宣伝とチラシの配布とスタンディングと3人だけでも続けています。

今年の3月下旬には、再再延期になった「平和のつどい」（映画会）を予定していません。（事務局・前山研志）

### **3の日行動重ねて6年目に**

#### **【東京都小金井市／9条の会・こがねい】**

毎月3日に「アベ政治を許さない」のポスターを掲げる全国スタンディングが小金井でも2016年1月3日にスタートし今年6年目に入りました。最初は2人で始まったこのスタンディングもいまは毎回14～15人の市民有志が参加しています。

今年も3日午後1時から駅頭で最初のスタンディング。通常は30分の行動ですが、今回はコロナウィルス感染が爆発的に拡大していることもあり、15分に短縮し、間隔もあけてのアピールでした。

参加者は「アベ政治の継承は許さない。止めよう改憲発議」などと書かれたポスターを掲げ、「今年こそ市民と野党の共闘で政治を変えよう」と決意を新たにしました。（「9条の会・こがねいニュース」180号）

### **権力に異を唱える自由保障せよ**

**【愛媛県／憲法9条をまもる愛媛県民の会】** 憲法9条をまもる愛媛県民の会は9日に松山市の繁華街、大街道一番町口で、今年最初の定例の街頭宣伝をしました。7人が参加し、「改憲発議に反対する全国緊急署名」への協力を呼びかけました。

森英二事務局長は、菅首相による日本学術会議新会員の任命拒否問題について訴え。

「戦前の日本は権力に異議を唱える人を次々に弾圧し、無謀な戦争へと突き進んだ」と述べ、同じ歴史を繰り返さないためにも6人の任命拒否を撤回させ、権力から学問の自由を守り、戦争をする国づくりを許さないたたかいをと呼びかけました。

カップルで署名した市内の男子高校生(17)は、「平和を守っているのは憲法9条の力だと思う」と話しました。

## 困っている人に手を差しのべよ

**【和歌山県／憲法9条を守る和歌山弁護士会】** 14年6月から毎月継続されてきた「憲法の破壊を許さないランチタイムデモ」(呼びかけ「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」)は13日、和歌山市で実施され、60人が参加しました。

参加者らは「憲法9条を守ろう」「戦争する国ぜったい反対」などとコールしながら市内を行進。新型コロナウイルス感染症に対する菅政権の対応に無為無策、後手に回っているなどの批判が高まっている中、山崎和友弁護士は「ニュースを見るたび怒りがわく。菅首相はなにをしようとしているのか伝わらない」と指摘。「どうすれば解決できるのか多くの人の意見を聞いて実行すべきなのに、やっていない。一番困っている人に手をさしのべるといふ、行政として当然やるべきことをすべきだ」と話しました。

## 沖縄のたたかいに学ぶ

**【東京都調布市／調布九条の会】**

日米間で沖縄・宜野湾市の普天間基地「全

面返還」を合意されてから25年目を迎えた新年、調布「憲法ひろば」1月例会はコロナ感染拡大で「緊急事態宣言」が再発令されて3日目の1月11日13時半～、厳しい入場制限となった「たづくり・映像シアター」に44人が参集。

第1部として上映した「沖縄から叫ぶ・戦争の時代」は2018年初頭の名護市長選で辺野古への移設阻止を訴えた現職の稲嶺進氏が敗れ、辺野古への土砂投入や宮古島、石垣島、與邦国島への自衛隊基地配備、騒音や落下物にいのちと生業を脅かされる基地周辺の人々の苦悩と葛藤を丹念に取材。翁長県知事の急逝を受けて9月県知事選挙で玉城デニー知事を誕生させた「オール沖縄」のたたかいを記録した61分の映画。

第2部としてはこの映画制作の後の2020年4月「沖縄と本土・一緒に闘う」を完成させ、現在は石垣島で取材を続けている湯本雅典さんが「映画制作をするなかでみてきたこと」と題してお話をされた。

(調布「憲法ひろば」第188号)

## 「9条風揚げ」でアピール

**【長野県岡谷市／諏訪九条の輪】** 岡谷市の諏訪湖畔の公園で11日、「九条風揚げ」があり25人が参加しました。諏訪地域6市町村の9条の会などで行く「諏訪九条の輪」が主催。

いつもと違う南風がゆるやかに吹くなか11連風が揚がりました。それぞれにメッセージが一文字ずつ書きこまれ、「世界にほこれ！日本の憲法九条」「子どもたちに残そう平和な未来を！」と願いをこめて青空に。

参加者からは、政治の刷新とコロナも早

く収束してほしいとの声が聞かれました。

## 豊かな戦争体験談に引きこまれ

### 【群馬県／渋川・北群馬九条の会】

渋川北群馬九条の会15周年の集いが11月8日に渋川市中央公民館で開催され40名が参加しました。新婦人渋川支部によるコーラスでオープニング。全員がマスク着用の新型コロナ対策での合唱となりました。

九条活動の報告は生方事務局長が1年の活動とこれからの方針を提案して承認。

集いは原口事務局員の司会ですすめられ、引き続き「中村幸生さんの戦争体験」のお話をお聞きしました。金井厚二・吉村駿一両弁護士は中村さんの教え子ということで2人が中村さんに質問して、中村さんがそれについて話すという対談方式で話は進められました。中村さんは1925年に中国の青島で生まれた95歳でとてもお元気でわかりやすく自分の人生を語り、会場は戦争体験の話ですが随所で「ハ・ハ・ハ」と笑いにつつまれ、独特の話術で話されました。

学徒動員・満蒙開拓団・世界恐慌と高橋是清の政策・ナチスの台頭のお話でした。

北帰行作曲者の宇田博さん・堀部さんとの徴兵回避の論争・ソ運収容所からの脱走・九条を守る運動はロマンチックの活動でと多岐にわたって話されました。

最後に阿久澤事務局員からお礼の言葉があり終了しました。会場でのカンパは31名から40、592円のカンパが集まりました。大変ありがとうございました。

(「渋川・北群馬九条通信」NO79)

### 《全国首長の会からのメッセージ》

前長野県中川村長 **そが 逸郎**

アメリカファーストを標榜したトランプ大統領は、世界への責任を放棄したまま去ることになった。中国も、自由や自治を本土に拡散させないため、香港への圧力を強めている。二大国が理念に背を向け、利己的な本性を露わにしているのだ。

一方、話題の『人新世の「資本論」』は、議会制民主主義ではなく、市民の直接参加型の抗議運動を高く評価している。現に日本の外ではそういった活動が活発だ、

すなわち、国家の存在意義が低下しているのである。「メッキが剥げただけで、国家とはもともとそんなもの」、そういう冷めた見方も可能だろう。しかし、現状においては、国家が法律や条約を適切に制定し運用しなければ、温暖化防止であれ核兵器廃絶であれ、実効性のある対策にはならない。地球全体の未来を考えて行動する国家が現れないと、世界はますます混迷に陥る。

そこで思い至るのは、日本国憲法前文だ。日本国民が、国家の名誉にかけ、全力をあげて達成すると誓った「崇高な理想と目的」とはなんだったか。

「自国のことのみ専念して他国を無視してはならない」という法則に従い、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去」し、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する」。そんな世界を実現するために真摯に努力する。日本国民は、そういう国家に日本を変えねばならないのだ。

主権者としての新年の思いである。

(「全国首長九条の会ニュース」第15号)